



れふアレンス通信

No. 10

2011. 7. 1

石川県立図書館
利用サービスグループ

〒920-0964

金沢市本多町 3-2-15

世界農業遺産 能登の里山里海を知る

「民家検労図」より製塩の風景



2011年6月11日、北京で行われた「GIAHS 国際フォーラム」において、佐渡地域及び能登地域の取組みが世界農業遺産 (GIAHS) に認定されました。

世界農業遺産は、国連食糧農業機関 (FAO) が 2002 年から開始したプロジェクトで、次世代へ継承すべき

重要な農法や生物多様性等を有する地域を認定するものです。これまでにペルー、チリ、中国、フィリピン、チュニジア、アルジェリア、ケニア、タンザニアのパイロット地区が認定されてきました。

能登地域が認定されたのは、農林水産業を一体とした伝統的な文化のもとでの「持続的な農業生産システム」の振興と、里山・里海の保全活動への取組みです。これは日本で初めて (先進国でも初めて) の認定です。

そこで、今回は世界農業遺産「能登の里山里海」を知るための資料をご案内します。

「里山」「里海」って何? 「里山」とは、繰り返し利用されてきた薪炭林やマツタケ山からなる林業的自然とそれに隣接する田んぼ・ため池・用水路等からなる農業的自然が結合した自然 (『生態学事典』日本生態学会編 共立出版 2003 年より) をさします。四手井綱英氏の造語であることが『森に学ぶ』(四手井綱英 [著] 海鳴社 1993) に記されています。これに習って、瀬戸山玄氏は、海辺の生態系と人間の営みとが分かちがたく結ばれ、バランス良く風土を醸す関係を「里海」と名づけ、『里海に暮らす』(岩波書店 2003) を書いています。

世界農業遺産について

- ◆ 農林水産省プレスリリース <http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kantai/110611.html>
- ◆ 国際連合食糧農業機関 (FAO) 日本事務所「世界重要農業遺産システム」 <http://www.fao.or.jp/146/225.html>
- ◆ FAO GIAHS <http://www.fao.org/nr/giahs/en/> (英文)
- ◆ 石川県 世界農業遺産「能登の里山里海」の紹介 <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/satoyama/giahs/sample.html>

能登の原風景

- ◆ 『NOTO 能登・人に知られぬ日本の辺境』パーシヴァル・ローエル著 宮崎正明訳著 十月社 1991 (K291/44) 在日中のアメリカ人天文学者ローエル (1855-1916) が明治 22 年 (1889) 江戸から能登への往復旅行をした時の紀行文。穴水のボラ待ちヤグラ、いさざ採りの風景の描写が印象的。

千枚田と里山景観

- ◆ 『棚田の謎 千枚田はどうしてできたのか』田村善次郎著 TEM研究所著 OM出版 2003(K616/1010) 詳細な調査に基づく千枚田の研究書。千枚田が数次にわたって開拓され、何百年もの間活用され続けてきたことを明らかにする。
- ◆ 『名勝「白米の千枚田」保存管理計画』日本ナショナルトラスト編集・協力 石川県輪島市 2003(K616/1011) 棚田としては全国2番目に指定された「名勝」千枚田の保存管理計画。
- ◆ 『奥能登の民家 民俗地理学的視点』浜太一著 文芸社ビジュアルアート 2007(K383/1013) 風土が民家の形態に影響を与えるという観点から、珠洲市大谷町の民家を検討する。

製塩その他の伝統的な技術

- ◆ 『里山里海の伝統的知識・知恵の伝承 石川県の炭焼きと揚げ浜式製塩』大学コンソーシアム石川[ほか]企画・監修 金沢大学 2010(K602/1014) 持続可能な地域社会の実現に向けて、里山里海の伝統的知恵と現代科学の融合を模索する。
- ◆ 『能登の塩』下出積興著 宇都宮書店 1968(K669/4) 日本の塩の多くが「入浜式」という塩田であるのに対し、能登は「揚げ浜式」という古い方式を維持し続けた。昭和34年に廃止された塩田の歴史と用具を記録する。
- ◆ 『奥能登の風土性』浜太一著 ブイツーソリューション 2010(K291/1013) 奥能登の揚げ浜塩田や舳倉島の海女の生活に奥能登の風土性を見出した著者による奥能登論。図や表を多用して奥能登の揚げ浜塩田をわかりやすく解説し、現代の観光産業としての塩田にも言及する。
- ◆ 『日本漁民社会論考 民俗学的研究』高桑守史著 未来社 1994(K661/68) 能登半島をフィールドにした漁撈民俗の研究。
- ◆ 『民家検労図』北村与右衛門良忠著 石川県図書館協会 1995(K612/17) 『民家検労図』は、江戸時代後期に成立した当時の生業を生き生きと描いた絵農書。製塩(写真)や炭焼に関する部分もある。本書は当館所蔵本の複製版。

里山・里海の生物多様性

- ◆ 『石川県生物多様性戦略ビジョン トキが羽ばたくいしかわを目指して』石川県環境部里山創成室 2011(K468/1026) トキが舞う里山里海を未来の世代へつなげることを目標として策定した石川県の戦略ビジョン。
- ◆ 『石川県の生物多様性保全の取組 里山里海を未来の世代へ』石川県 [2010](K468/1023) 石川県の生物多様性の取組を記したパンフレット。
- ◆ 『里山復権 能登からの発信』中村浩二編 嘉田良平編 創森社 2010(K468/1020) 「生きものと農業、そして人の輪が調和して成り立つ」社会モデルとしての「里山里海」の復権を求める活動の記録。
- ◆ 『能登半島里山里海の生物多様性調査 2006-2008』赤石大輔・宇都宮大輔・中村浩二編集 能登半島・里山里海自然学校事務局 2009(K468/1018) 荒廃しつつある能登半島の里山の保全と地域再生を目指して行なわれた、奥能登里山の生物多様性の現状の調査報告書。
- ◆ 『ホクリクサンショウウオ増殖池造成後11年の歩み』竹田俊雄編 羽咋市教育委員会文化財室 2002(K487/1001) 絶滅危惧種ホクリクサンショウウオ保護対策事業の記録。
- ◆ 『能登のトキ物語 語りつぐ、能登に暮らしたトキの生活史』村本義雄著 橋本確文堂 2010(K488/1023) 能登半島最後の野生トキ「ノリ」捕獲の記録。
- ◆ 『大空にはばたく珠洲市の野鳥たち』日本鳥類保護連盟石川県支部・石川県希少生物研究会 2004(K488/1016) 2000~2003年のハクチョウをはじめ様々な野鳥の観察記録を収録する。

祭礼・文化

- ◆ 『能登の伝説人』瀬戸久雄著 渋谷利雄写真 能登学研究会編集 能登印刷出版部 2000(K380/1001) 能登の様々な伝承を守り続けてきた人々にスポットをあてる。
- ◆ 『柳田国男と民俗学の近代 奥能登のアエノコの二十世紀』菊地暁著 吉川弘文館 2001(K385/1013) アエノコの調査をテーマに生産的な民俗誌のあり方を検討する。
- ◆ 『能登きりこ祭り』渋谷利雄・藤平朝雄著 せいしん社 1999(K385/1007) 能登のきりこ祭りを写真と解説でコンパクトに説明。

このほかにも、能登の各市町村史、文化・自然に関する調査報告書など数多くの資料があります。

お問い合わせは調査相談カウンターまで。Tel: 076-223-9575 E-mail: chosa@pref.ishikawa.lg.jp